

## 編集後記

十勝川の豊漁については、前号でもお知らせしたが、河川内での捕獲、採卵記録は共に大きく塗り替えられた。

短期間に、しかも少数人員での処理を要求される現地は戦場のようなあわただしさ……秋庭氏から現地をみた情景を寄稿いただいた。必読の程を。

この豊漁から大きな教訓を得たし確認がなされた。日頃の苦労や辛さも漁民の恵比須顔で忘れるがもっとも恵比須顔的な恵比須顔を全道・全国の漁民に与えるのが吾々の使命である。

人工増殖をより効果的に行うには、天然界における状態を熟知しなければならぬ。研究も進み徐々に解決されてはきたが

未解決の点がまだまだ多いようである。佐野氏からいただいたサケ・マスの繁殖環境、江口氏の原稿などは増殖事業推進上貴重なものである。

秋日和の十月六日、遠いフランスから女性を交えた青い目の養鱒業者一行が当場を訪れた。その模様は高山氏から報告いただいたが、共通の問題点として汚水、魚病対策があった。

ともあれ海外まで研修旅行するのだから相当の実力者達だろう。ここいらで北海道の養鱒業者も奮起してほしい。

世間では日韓条約反対とか、物価値上げ等で新聞を賑わせていたが、本年最終号の編集を終りました。ご協力いただいた皆様誌上より厚くお礼申し上げます。

明年は装いも新たにお目にか

かる予定です。

気象風物も晩秋から初冬へと移り、気温もジグザクコースをたどっている折柄、各位のご健康を切にお祈りいたします。

(H・T)

### 「魚と卵」編集委員会

農林技官 小山田 博 技術吏員 外 崎 久  
農林技官 長 沢 有 晃 技術吏員 寺 尾 俊 郎

札幌市中の島 (TEL 代表 ☎ 0111)

発 行 北海道さけ・ますふ化場 場 長 三 原 健 夫  
北海道立水産孵化場

印 刷

中西写真製版印刷株式会社

昭和40年11月25日印刷

昭和40年11月30日発行

第16卷第

印刷

中西写真製版印刷株式会社